

結節性硬化症について

病 名	病気の症状や対応について	難病の団体・HP
結節性硬化症	<p>◇症状</p> <p>・結節性硬化症はプリングル病とも呼ばれる。全身に過誤腫とよばれる良性の腫瘍ができる病気。皮膚と神経系に異常がみられ、皮膚の症状があざの様に斑状に出る（母斑）ことから、神経皮膚症候群あるいは母斑症というグループに入れられている。</p> <p>◇治療法</p> <p>それぞれの症状に対する対症療法がほとんどである。たとえば、てんかんがある人に対しては、てんかんの治療が必要になってくる。結節性硬化症のてんかんとそれ以外のてんかんとで、特に治療にちがいはない。主治医の先生の指示に従って、お薬を毎日きちんと飲むことが一番大切である。</p> <p>腎臓の血管筋脂肪腫は出血の危険が高いときには、有る程度の大きさまでなら、腫瘍に行っている血管を詰めて腫瘍に栄養がいかないようにして、腫瘍を縮める方法がとられることがある。</p> <p>肺のLAMに対しては、ホルモン療法や、卵巣摘出あるいは、ひどくなれば、肺移植をする場合もある。</p> <p>顔の赤いボツボツ（血管線維腫）や爪の周りの腫瘍は、日常生活でじゃまになったり、美容的に気になる場合は、皮膚科で治療を受けることができる。凍結凝固療法、ビタミンD3内服療法、レーザーアブレーションなどが有効な治療として知られている。</p> <p>最近報告されてきている治療法として、ラパマイシンと呼ばれるお薬が使われることがある。結節性硬化症の腫瘍が出来やすくなるのをおさえるお薬で、外国で、脳腫瘍や、腎の腫瘍、肺のLAMに対して、研究的に試されてきた。</p> <p style="text-align: right;">（難病情報センター：HPより）</p>	<p>難病情報センター nanbyou.or.jp/sikkan/024.htm</p> <p>T S つばさの会 ts-tubasa.com</p>